附属聴覚特別支援学校における取り組み

附属聴覚特別支援学校　　渡邊 明志

2016 年は 4 年に一度のオリンピック・パラリンピックが南米ブラジルで開催され、本校の児童生徒にとってもオリンピック教育をより身近に捉えられる年度となった。体育や総合的な学習の時間、学校行事などを中心にオリンピックを素材とした教育活動が各学部で展開されたが、本稿では文化祭でオリンピックについて発表を行った中学部 1 年生の取り組みについて紹介する。

1．文化祭について

本校の文化祭「欅祭」は、毎年 11 月上旬に行われる。今年度は 11 月 2 日、3 日（文化の日）に開催された。「芽～新たな未来に向かって～」というテーマのもと、幼稚部・小学部・中学部・高等部普通科・高等部専攻科・寄宿舎などから合わせて 27 の展示発表があり、内外から多くの来校者を迎え好評を博した。

2．展示発表「Athens1896 → Tokyo2020 ～オリンピックの歩み～」に向けた取り組み

活動の内容は以下のとおりである。

【指導教諭】　廣瀬由美、半沢康至

【対象生徒】　中学部 1 年　14 名

【活動目標】

・オリンピック・パラリンピック教育について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組むことができる。

・オリンピック競技大会はどのように行われているのか、現在の姿と歴史を学ことができる。

・オリンピック・パラリンピックに出場する選手について調べ、まとめることができる。

・来場者が興味を持つ展示発表にするためにはどうしたら良いかを考え、判断することができる。

【計　　画】　①期間　　2016 年 9 月 22 日から 2016 年 12 月 5 日まで

②内容　・準備　　‥‥ 約 27 時間

・文化祭による展示発表　‥‥2 日間

・事後指導　　‥‥ 約 6 時間

【指導内容】

事前学習	
9 月	文化祭の学年会の発表テーマについて話し合い、オリンピック、パラリンピック、デフリンピックを扱うことに決定。文化祭全体のテーマを踏まえ、未来を志向し「Athens1896 → Tokyo2020 ～オリンピックの歩み～」と決定。
10 月	(1)「歴史」「選手」「競技」「パラリンピック・デフリンピック」という 4 つの作業グループを決めた。 (2) グループごとに参考書籍、インターネットなどで情報を集め、展示物の文章を考えた。 (3) パンフレット原稿、校内掲示用のポスターの原稿などを代表の生徒が作成した。 (4) 模造紙で掲示物を作った。その際には、下書きをしてから清書することとし、文字の大きさ、色について統一ルールを設け作業をさせた。生徒の発案で、各掲示物のタイトルはオリンピックカラー (5 色) で書くことになった。 (5) 来場者へのクイズを作ることに決まった。また、中学生以下の正解者に渡すプレゼントとして、折り紙で金メダルを作ることになり、掲示物の準備が終了した生徒から作業に取り組んだ。クイズ用紙の配布、質問への回答をする受け付け当番を決めた。
発表前日	
11 月 1 日	・掲示物の展示 ・万国旗、東京オリンピックタオル等での飾りつけ ・クイズ内容との整合性を取るため、掲示物に加筆

発表当日 11月2日 3日	発表内容：掲示物の展示、クイズ、金メダルの贈呈等 （掲示物の内容） 【歴史グループ】 オリンピックの歴史、年表、日本の獲得メダル数の推移、次回冬季オリンピック平昌オリンピックの紹介、メダルの規格等 【選手グループ】 中学部内アンケートで上位になった選手についての紹介、東京オリンピックで活躍が期待される選手の紹介、メダリストの出身地地図作り等 【競技グループ】 中学部内のアンケートで上位になった種目の紹介、東京オリンピック追加種目の紹介等 【パラリンピック・デフリンピックグループ】 パラリンピック・デフリンピックの歴史、種目、デフリンピック開催地一覧表等 （生徒の活動） ・当番の時間帯にはきちんと展示室に戻り、来場者に積極的に説明をしたり、質問への回答を行ったりしていた。
事後学習 11月 12月5日	・発表当日までの反省会 ・12月のソウル聾学校との交流に向けた指導 12月5日よりソウル聾との交流の準備を始めた。文化祭の時の４グループで、文化祭の発表のまとめとクイズや質問を作成している。ソウルとの交流ということで、韓国がメダルを獲得した種目や選手、ソウルオリンピック、平昌オリンピックについて調べ学習をしながら、クイズや質問を作成していった。 ・韓国ソウル聾学校とのオンライン交流 オリンピック・パラリンピックについてのクイズを出し合った。日本からは文化祭の展示発表で調べた内容のクイズ、韓国からは2018年平昌オリンピックに関する内容のクイズが出された。また、韓国と日本の手話に関するクイズも出され、「同じ表現だ！」「日本とちょっと違うね」など、積極的な交流がみられた。

３．活動結果

【来場者数】 芳名帳に記帳していただいた方の人数が1日目155名、2日目143名であった。

【来客者の反応】 感想ノートより（原文のまま）

「オリンピックについて知らないことが知れたので、良かったです。」

「オリンピックについて更に興味が沸きました。」

「あまり出ない選手の説明があったので、その選手の事が分かって良かったです。」

「４年に一度やる理由が一番気になっていたので、スッキリしました！！」

【表　　彰】 同窓会賞を受賞した。

４．指導成果

【生徒の反応】（ソウル聾学校との交流後のアンケートより）

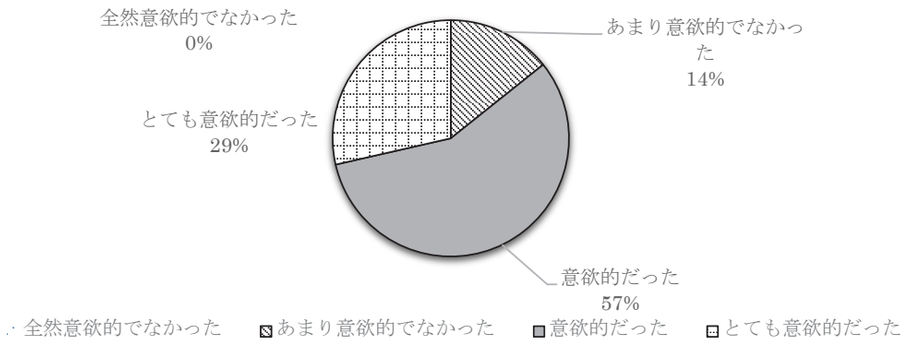
①文化祭展示や交流に向けた活動に意欲的に取り組めたか≫

「とても意欲的だった」4名

「意欲的だった」8名

「あまり意欲的でなかった」2名

⇒ 「あまり意欲的でなかった」を選んだ生徒2名も理由として「調べるとき、余計な物を調べてしまったから」というようなことを挙げており、必ずしも意欲がなかったわけではないことがうかがわれた。



②自分たちで調べてまとめる活動や他のグループの展示物を通して初めて知ったこと

グループ名	初めて知ったこと
歴史	4 年に 1 度の理由、いつオリンピックができたのか、古代オリンピックの種目、メダルの重さ、オリンピアという場所があったこと、東京オリンピックについてなど
競技	中学部生徒・教員へのアンケート結果の円グラフ、東京オリンピックの追加種目、平昌オリンピックの競技など
選手	人気選手について、メダリストの出身地の地図、東京オリンピックで活躍が期待される選手、平野選手が全日本卓球選手権大会で史上 2 人目の小学生優勝者であったこと、福原愛選手、水谷隼選手など
パラリンピック・デフリンピック	どうしてできたか、リオパラリンピックのマスコット、パラリンピックの聖火、パラリンピックのシンボルマークの変遷、デフリンピックの開催地、卒業生でデフリンピックに出場した人がいることなど

③自由記述欄

「東京オリンピックで種目が追加されることを知らなかった」

「オリンピックがそんなに昔からやっていたなんて知らなかった」

⇒　多くのことを初めて知った様子であった。

④今後、調べてみたいこと、知りたいこと

「プロ･アマの違い」、「お金の問題」、「ドーピングの問題」、「オリンピックでアメリカが強い理由」、「バレーボールの試合の最長時間、バスケットボールの最高得点など世界の最高記録」、「メダリストについて」、「メダルのデザインなどについて」、「パラリンピック・デフリンピックの競技」、「車椅子バスケットボール」など

⇒　指導者が思ってもいなかった具体的な内容が挙がり、生徒たちの興味・関心の高まりや理解の深まりを感じることができた。

⑤活動に取り組んでよかったと思うか

「とてもよかった」10 名

「よかった」4 名

⑥活動を肯定的に感じた理由

「みんなの団結力が高まったてきてよかったと思うから」

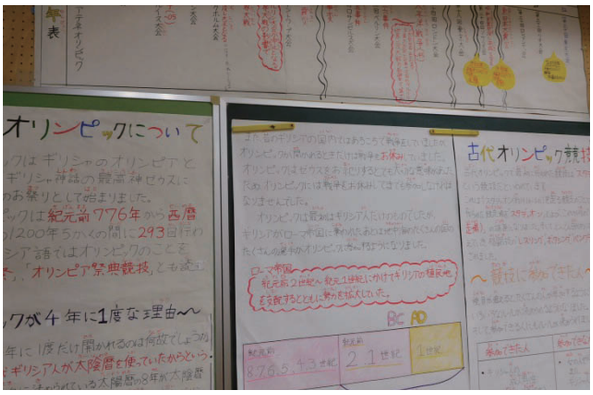
「歴史や競技など今まで知らなかったことをたくさん学ぶことができ、知識を増やすことができ、楽しかったから」

「4 年に 1 回の理由や東京オリンピックの期待の星とかいろいろ知れたうえで 2018 年の平昌オリンピック、2020 年の東京オリンピックを楽しんでいきたいと思ったから」

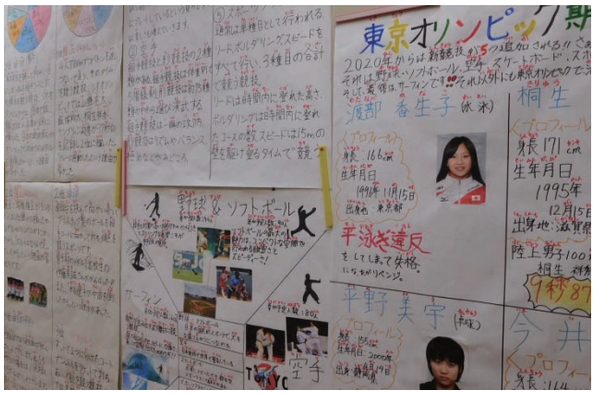
「知らない人のために伝えるのが良かったです。僕は一生けんめいにがんばったから」

「ソウル聾学校のみんなが笑ってくれたり、なるほどと言ってくれたりしたから」

【活動記録】　来客者は受付時に年齢に合わせたクイズを配布し、展示を見ながらクイズを解いていく。



活動記録①　オリンピックの歴史等



活動記録②　東京オリンピックに向けて

活動記録③　パラリンピックについて

活動記録④　メダリストの出身者地図

活動記録⑤　オリンピック関係書籍

活動記録⑥　手作り金メダルの贈呈

【指導者から】

「芽～新たな未来に向かって～」というテーマに合わせ、文化祭について話し合いを始めた時、夏休みのオリンピック熱が冷めていない状態でほぼ全会一致で決まりました。指導計画立案に際しては、中1生徒だけでこのような活動をするのは初めてだったので、進行状況に合わせて柔軟に追加していけるように検討しました。他の学年会と内容が重なるのではないかと心配もしましたが、それほど重ならなかったことと、各グループで非常に熱心に取り組んだので、内容が深まり、いい展示になったと感じました。実際、思った以上に生徒たちが集中して意欲的に活動していたので、当初の計画よりも多くの掲示物を作成することができました。しかし、受賞は予想していなかったので、驚きましたし、喜びも大きかったです。東京オリンピックで追加される種目や東京オリンピックで活躍が期待される若い選手についてもまとめることができ、同窓会賞の受賞につながったと思われます。

次回オリンピックは冬季の平昌オリンピックということなので、ソウル聾学校との交流もオリンピックをテーマに行うことにしました。伝える相手によって調べる内容も変わったので、より一層幅広い知識が身につき、関心も高まりました。相手の反応を直接得ることができ、生徒は大きな達成感を得たようです　（廣瀬）

夏休みにオリンピック、パラリンピックが開催されたこともあり、生徒たちの興味・関心が高く、意欲的に活動するようすが印象的でした。展示内容を話し合う活動では、自身が所属する部活動の競技はもちろん、新聞やテレビのニュースで話題になっている競技についても調べたいという意見が多く、これまで知らなかったスポーツにも触れるよい機会となりました。展示の仕方にも工夫が見えました。調べた内容をそのまま書き写すのではなく、見やすくするために色を変えたり、絵を多くしたり、会話調の説明の仕方をしたりする等、見る人の立場になって書くことができました。

今回の展示をきっかけに、スポーツへの興味・関心の高まりとともに、展示の仕方や伝え方についても学習することができたのではないかと思いました。また、事後学習となるソウル聾学校との国際交流では、文化祭での内容をふり返ることができ、クイズを考える活動を通して、オリンピック・パラリンピックについての知識を深めることができました。

今回の学習では、調べた内容を発表する機会が2回あり、生徒たちは1回目の反省をいかして2回目に繋げることができ、知識の深まりと学習の定着になったのではないかと思います。　（半沢）

4．その他

このほかにも、9月に行われた体育祭ではリオデジャネイロオリンピックを意識した「めざせ金メダル」（小学部1･2･3年）や「ブラジルへ行こう」（小学部4・5・6年）と題した競技種目、2月には中学部2・3年生徒28名を対象に体育授業の一環としてラート運動を実施している（昨年度に引き続き2回目、協力・講師：筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター准教授　天野和彦氏）。

それぞれの活動を通して、オリンピック･パラリンピックに対する興味関心がより一層深まり、児童生徒の心に運動･スポーツの新たな見方や価値観が芽生えてくることを期待したい。